

# 日野の泉

No. 4

平成28年7月25日

## 一学期を振り返って ～心に染み入る 二つの出来事～

「みんなと見つめる 私の蛍」  
今年は、6月から7月にかけて、中庭のホタル池で、蛍が大発生しました。

6月初旬に、数十匹の蛍を確認して以来、日に日にその数を増しました。6月の下旬には最高潮に達し、雨上がりの蒸し暑い夜は、千匹を超える蛍が、ホタル池を天の川のように照らしました。

少し観賞して帰ろうと思うものの、あちらこちらで光り

出し、一番蛍が舞うと次々に湧き出るように無数の蛍が舞い始める。そんな幻想的な世界に身を置くと、一時間近く見入ってしまう。蛍が放つ不規則な光には、人の心を穏やかにする不思議な力があるように思います。帰り際、ワイシャツの袖にとまった蛍が光りました。正岡子規が、こんな句を詠んでいます。

「お祓いして 帰るたもとに 蛍かな」

そんな光景を児童や保護者の皆様にも知らせずにはいられない気持ちになり、学校メールで観賞を呼びかけました。手のひらの上において「宝石みたい」と歓声を上げる子ども。「わあ、きれい」「イルミネーションみたい」「これは大したもんだ」等々、暗闇の中庭に児童や父母、祖父母の方々の声が響きました。

「螢火に 触れて少女ら 奇声上げ」

そして、「今晚は」「おやすみなさい」と挨拶を交わし合いながら日野の人々が蛍観賞を楽しむ姿がありました。先生方は、職員室に暗幕を張って中庭に灯りが逃げないようにして夜仕事を続けている。帰る時、職員室前を通りかかるとそれに気づく。

「螢飛び 学校の灯り まだともる」

こんなふうに、家族で蛍が放つ光を見つめて、その美しさに感動している。職員も含め日野の子どもたちや保護者、地域の方々と、共に蛍の光を見つめている。ただそれだけで、みんなと一緒にいるような気持ちになる。嬉しくなってくる。

昼間草陰で蛍の死骸を目にしました。無事に勤めを果たした蛍は、土の中に頭を突っ込み大地に還っていくのです。蛍の光は、命を育む光。単に美しいだけでなく、命の輝きがまた私たちの心をひきつけるのかもしれない。あの東日本大震災後、復興を願って詠まれた句が印象的です。



「被災地に 希望のひかり ホタルかな」



30年近く前、昔のような蛍の舞う里を日野小児童に見せたいと願い、蛍復活にかけた当時の方々の悲願が今年このような形で叶ったかと思うと感慨もひとしおです。

7月も半ばにさしかかると、あれだけ乱舞していた蛍の光がぼつんぼつんとなっていき、何かしら寂しささえ感じる心境になりました。そんな寂しさに浸りながら、来年再び、たくさんの卵から蛍がかえり、夏の夜、私たちの心を一つにしてくれることを祈るのです。「ホー ホー ホタル 来い…」と。

### PTA理事会での協議に想う ～校外生活のきまりについて～

5月、PTA理事会で校外生活のきまりについて協議していたときです。ある理事の方から「宮川で魚取りとかして遊んでいる子どもがいるが、事故にならないか心配」という主旨のご意見をいただきました。そのことについて他の理事の方々から様々な考えが出されました。「外遊びが少なくなっているので、地域の自然の中で遊ばせてあげたい」という思いや、「深さ10センチの川でも溺れる可能性はある」という水の恐ろしさについての指摘がありました。



そのような中、きまりの中に、「宮川では遊ばない」という事項を入れるかどうか協議されていったわけです。「いろいろな子どもがいるので、遊ばせたい気持ちと安全と言うことで迷うところである」「宮川等で遊ぶ場合は親が付き添うという条件をつけて遊ぶようにしたらどうか」「実際に親が付きそうのは難しい」「宮川でも遊べないとなると、家でゲームして過ごすしかなくなる」等々、思いのこもった意見が続きました。そんな中、「学校のきまりとするのは、おかしな気がする。

1年生から6年生までいろいろな子どもがいるわけだし、親の判断、責任で遊ばせるべきことではないか」という考えが出されました。

今回の協議では、児童だけの宮川での川遊びは禁止という、きまりは設けませんでした。自然の中で思い存分遊ばせたいという思いと、児童の安全を願う思いを考えると、その兼ね合いは難しく判断しかねます。だからこそ、PTAで児童の遊び（生活）について考え合うことの意味深さを感じたわけです。

日野の子どもたちにとってどうなのか。今回このような話題を提供してくれ、そのことについて熱心な協議をしていただいたPTA理事の方に感謝したい気持ちになりました。「千曲川や近くを流れる深い川では遊ばないことの確認。川で遊ぶときの注意喚起、どこで遊ぶかを家の人に伝えて遊びに行く」等を確認し合いたいと思いました。

日野地区は水が豊かで、私たちの暮らしにも豊かさを与えてくれています。その一方で、川との付き合い方を同時に学んでいかなければならないことを改めて感じました。



今夏、私たちが、蛍に感動している子どもを見つめる眼差しと、ふるさとの川で遊ぶ子どもを想う眼差しには、共通するものがあるように感じたわけです。

1学期の本校教育活動へのご理解とご協力誠にありがとうございました。